

I-1

特集 顔の輪郭を制する

総論

美しい輪郭とは何か？

関谷秀一

関谷クリニック南青山 院長

“美しい輪郭とは”と考えたとき、輪郭は、絵画に例えるなら、額縁でありバックグラウンドであるから、輪郭のみを切り離して美しさを論じることはできない。美しい輪郭を考えることは、美しい顔貌を論じることである。また、我々美容医療に関わる立場では、あくまで目の前のクライアントに限定して、美しさを考えなければならぬ。このような制約下で、美容医療に携わる者に求められる“美しい顔貌”の指針は、目の前のクライアントを題材に“相手に好感を与える表情”を作り出すことと考えられる。その際、クライアント自身の要望は本人の主観、性格、精神状態によって揺れ動く場合があるので、治療者は“美しい顔貌”の指針をしっかり確立し見失わないことが重要である。

美しい顔貌を考える

“美しい輪郭とは”，と考えたが、輪郭のみを切り離して美しさを論じるのは、大変困難である。顔の輪郭は、口唇、毛穴、鼻などの独立した顔面の構成要素ではなく、バックグラウンド、絵画ではキャンパスや額縁にあたる。顔面を構成するパーツと切り離して、美しさを論じることはできない。美しい輪郭を考えることは、美しい顔貌を論じることであると、私には思われる。

さて、「美しい目とは、美しい唇とは、美しい鼻とは？」と聞かれたとき、皆さんはどう答えるだろうか。きっと、

いろいろな答えが返ってくることだろう。

たとえば、目について、ある人は、開瞼幅が大きく幅広い二重が美しいと考えるかもしれないし、ややつり上がった、切れ長の目が美しいと感じる方もいるだろう。唇はどうか。過去には、ぼってりした唇はあまり好まれない時代があったが、現在はボリューム感を好む人も多くなった。

このように人の顔貌の美しさは、人によって感じ方がさまざまであり、時代によって移り変わっていく。人種・民族・年齢などを考え合わせると、価値観はさらに多様化するので、美しい形を定義するのはなかなか簡単にはいかないと思われる。とりつきやすいところから考えていこうと思う。

美しい顔を追い求める立場と、美容外科医の立場の違い

顔面の美しさを考えるとき、立ち位置によって、基準の置き方が変わってくる。

美学のような、美しさとは何かを追求する立場では、たとえば構成要素や輪郭線をもとに黄金比や白金比、丸形・卵形、正方形・長方形など、幾何学的なアプローチも1つの方法である。イラストレーター・画家・彫刻家・映像クリエイターなどの立場では、素材に制限のない自由な条件で美しい顔を創造していくことができる。自分の頭の中に浮かぶ美しい顔貌のイメージを、現実の世界になんら制約されることなくとことん突き詰めて形にしていく。その過程で美しい顔貌の基準が形になってくるのではないだろうか。また、映画のキャスティング担当者や、ミスコンテストの審査員のように、多くの対象者のなかから美しい顔を選ぶという立場ではどうだろう。出場者を比較対比することにより、より美しい者を選別していき、この過程を通して、魅力的な顔・美しい顔の基準ができあがってくるように思う。ただ、この美しさは、現実世界に存在する生身の人間から離れることができないわけで、かなり大きな制約ではある。

さて、我々美容外科医という立場では、美しさの基準とはどのように決まっていくのだろうか。美容外科医の仕事は、目の前のクライアントの美しさを、どのように整えるか、どのように引き出すかだ。クライアントをどのような美しい顔に整えていかと方向性を決めるところに、多少の自由度はあるかもしれないが、出発点は目の前にいるクライアントになるわけで、当該のクライアントから離れて別のクライアントに取り替えることはできない。これは、大変な制約だ。現実世界の制約もなくまったく自由な発想で、美しさを追求できる学者・芸術家や、多数の候補のなかから選ぶ

というようなキャスティング担当者・審査員などに比べて、とてつもなく自由度が低い。

基準を持ち込むことの利点と限界

今述べたように、美容外科医にとって、顔面の美しさの基準を決めるのは大変困難な仕事だ。しかし、クライアントをより美しくする作業に取りかかるには、美しさの基準は必須だ。バリエーションに富んだ顔面の形態のなかに美しさの基準を見出して、バリエーションを理解しようとするとき、いくつかのポイントを目印にして、分類することは、たしかに役に立つ方法だ。雑誌やWeb、You Tubeなどでも、美人の条件は、顔の輪郭やパーツの配置が黄金比に近いこと、卵形であることなどと、モデル、女優、タレントや絵画などのいわゆる“美人”を引き合いに出して論じられる。美容医療に携わる者は、基礎知識として理解しておくことが大切だと思う。

ただ、多くのクライアントを見ていくうちに、一つ一つのパーツは整ってはいないが、笑顔がとても魅力的な人、もっと話をしたいと思わせる人、とても素敵の人に出会うことがある。パーツの配置もずれているのに、とてもかわいらしい人を目にすることがあるのだ。こうした、個性豊かで、素敵な顔貌を、観念的な美しさの基準に当てはめようとして、魅力を奪ってしまうことがあるとすれば、本末転倒になってしまう。我々の仕事にとっては、クライアント一人ひとりに適応できる基準を探す必要があるのだ。